

科目名	教育心理学 Educational Psychology						
科目担当者	雑賀 智子 SAIGA Satoko						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 自由科目] 経営学部・経営学科 [専門教育科目 自由科目]					ディプロマポリシーとの関連	(4)(6)
授業の概要	<p>教育基本法では、教育の目標として、幅広い知識や教養を身につけること、豊かな情操や道徳心を培うこと、個人の価値を尊重してその能力を伸ばすこと等が掲げられています。これらの目標に到達するために、教師は、子どもの学びに関わる心のはたらきや定型発達および個人差を理解し、一人ひとりに応じた教育の対応や工夫を考え、実践することが求められます。</p> <p>本講義では、一人ひとりの児童生徒に対する心理学的理解を行うための基礎知識や、心理学を学習指導・生徒指導へ応用するために重要な観点を学びます。具体的には、子どもの心理的な発達の理論や様相、生活指導や学習指導の基礎となる学習理論、記憶のはたらき、学習意欲に関わる動機づけ、子どもの個性に応じた指導、学級集団の心理等について講義を行います。また、講義内容を踏まえた課題により知識の定着と応用力の強化を図ります。</p>						
授業の到達目標	<p>①児童生徒の心身の発達に対する外的および内的要因の相互作用、発達に関する代表的な理論を踏まえ、発達の概念および教育における発達理解の意義を理解する。</p> <p>②乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達について、その具体的な内容を理解する。</p> <p>③様々な学習の形態や概念およびその過程を説明する代表的な理論の基礎を理解する。</p> <p>④主体的な学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連づけて理解する。</p> <p>⑤児童生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション・教育心理学の重要性					
	2	発達理論とその要因					
	3	言語・運動発達					
	4	社会性・道徳性の発達					
	5	自己の発達					
	6	発達特性の理解と対応					
	7	学習のメカニズム					
	8	子どもの学習方略					
	9	学習評価とメタ認知					
	10	記憶のメカニズム					
	11	記憶を保持するための工夫					
	12	動機づけのメカニズム					
	13	動機づけを用いた学習指導					
	14	学級集団の心理的特徴					
	15	全体のまとめと補足					
授業外学修 (事前学修)	次回の授業テーマについてあらかじめ調べておき、自身の学校経験や教師の立場になった際のイメージと照らし合わせる（毎週1時間30分程度）。						
授業外学修 (事後学修)	毎回授業テーマに応じた課題を提出し、教育に関わる立場として学んだことや考えを振り返る（毎週1時間30分程度）。 専門用語や教育心理学の重要性について、総合的に復習する（15時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	定期試験 毎回の授業テーマに応じた課題への取り組み				80% 20%		④、⑤ ①、②、③
成績評価基準	<p>秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	毎回、Moodleで資料を配信します。						
参考文献	『やさしい教育心理学 第4版』鎌原雅彦・竹綱誠一郎（有斐閣アルマ） 『絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を實踐—』藤田哲也（ミネルヴァ書房）						
その他							